

平成 25 年度石見銀山基金事業の選定結果について

平成 25 年 2 月 17 日（日）に開催した石見銀山基金事業選定委員会により、平成 25 年度に実施する石見銀山基金事業について、候補事業（要望事業）の公開プレゼンテーションと審査を行った。

今回、審査の対象となったのは、8 団体から要望のあった 8 つの事業で、審査の結果、8 事業すべてが基準点以上の評価を受け、石見銀山基金事業として選定された。

以下、関連資料

- ・ 石見銀山基金事業選定委員会委員名簿
- ・ 審査事業リスト
- ・ 審査事業審査表
- ・ 選定基準

■ 石見銀山基金事業選定委員会委員名簿

(任期：平成22年11月17日～平成25年 3月31日)

区分	氏名	職業・所属団体・役職	備考
学識経験者	井上 定彦	島根県立大学 名誉教授	委員長
	渡邊 一正	NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長	副委員長
	高須 佳奈	島根大学 特任講師	
石見銀山基金 募金委員会	梅 恒雄	大田商工会議所 専務理事	
行政	祖田 浩志	島根県教育庁文化財課 課長	
	蓮花 正晴	大田市 副市長	

※石見銀山基金事業選定委員会（平成25年2月17日開催）

（出席）井上委員、渡邊委員、高須委員、梅委員、蓮花委員

（欠席）祖田委員

■ 審査事業リスト

項目	申請団体名	事業名	事業概要	申請団体が目指す効果(目的)
石見銀山を守る活動	大森町自治会協議会	「大森町住民憲章」の看板作成	世界遺産石見銀山を未来に引き継ぐことを目的として町のあり方について定めた「大森町住民憲章」を記した看板(移動式)の作成及び設置	来訪者と住民が住民憲章を共有することにより、石見銀山の遺跡や自然と人々の暮らしが調和した世界遺産の価値を守り、未来に引き継ごうとする町民の姿への理解を深める。それにより、来訪者と住民がともに石見銀山を守り、引き継ごうとする意識の醸成を図る。
石見銀山を活かす活動	NPO 法人 緑と水の連絡会議	石見銀山 世界遺産を守る森づくり グリーンボランティアツアー	①森林(竹林)整備を軸としたグリーンボランティアツアーの企画と募集 ②森林整備作業(伐採竹の活用)の実施と作業参加者への石見銀山ガイダンス	繁茂する竹の伐採による遺構地形の顕在化など、遺跡周辺の景観を向上させる。 石見銀山のファンを増加させる。(保身に携わった思い出や、竹資源の活用などから)
	島根県現代彫刻振興委員会	みんなでつくろう福光石彫ワークショップ ～触って感じる彫刻 in 石見銀山～	①小学生から一般までを対象として行う、地元産材である福光石を使用した参加型彫刻ワークショップ ②会期中の公開制作を柱とした、福光石の遺跡との関連検証と彫刻的活用 ③公募による彫刻の制作展示と作家間及び石見銀山住民との文化交流	石見銀山遺跡と福光石の歴史的関連を検証することで、彫刻素材としての福光石の素材価値や関心を高め、流通の促進につなげる。 石見銀山史上の暮らしや文化の検証により、石見銀山遺跡の魅力を文化的側面から伝える。 石見銀山への来訪を促進し、文化事業の広報に努め、遺跡の伝統と魅力を高める。
	NPO 法人 しまね歴史文化ネットワークもくもく	石見銀山を活かす活動「石見銀山三日籠り」2013	石見銀山の歴史や生活、関連する分野をテーマにした講座や遺跡踏査、街道、町並み探索などのフィールドワーク、地域の事業者や住民とのセッションなどを組み合わせた3泊4日の滞在型体験講座の開催(夏と秋に各1回)	参加者が石見銀山で得た知識を各地に広げ、また、銀山関連の研究につなげるなど普遍的な波及効果により、石見銀山の魅力や価値を正確に伝え、来訪者の増大につなげる。 地域の住民や商品と参加者とがつながり、ネットワークが構築されることで事業効果を持続させる。

項目	申請団体名	事業名	事業概要	申請団体が目指す効果(目的)
石見銀山を伝える活動	石見銀山地質研究会	世界遺産石見銀山エリアにおける地質研究と啓蒙活動	①大江高山火山群とその周辺の地形や地質に関する研修・研究 (石見銀山の成因や火山群全体の形成過程を探る) ②継続的な研修会の開催	石見銀山の価値に関する捉え方を広げ、深化させる。具体的な例として、地層や鉱山などのかたちで恩恵をもたらした地下の変動を科学的に追及可能なものとし、日本海拡大期にできた石見層群と石見銀山の成因を関連付けて考察できるようにすることなど。 広く市民に啓蒙活動を行い、多くの市民の関心を高める。
	NPO 法人 プロジェクトゆうあい	石見銀山のバリアフリー観光情報の発信事業	石見銀山をテーマとしたバリアフリー観光情報誌の作成・発行 (発行中のフリーペーパー「てくてく日和(季刊)」のうち1号を石見銀山特集号とする)	石見銀山への旅行を検討する(している)障がいのある方に、観光情報のほか、バリアフリーに関する必要な情報を提供する。
	石見銀山とりむし・はなの会	石見銀山の動植物を知り、伝える	世界遺産石見銀山のエリアにおける動植物の分布調査と普及・広報活動	動植物の宝庫となっている石見銀山の環境を来訪者や次の世代に伝え、地域住民の価値の再認識にもつなげる。 野鳥・蝶・植物を観光資源として活用し、来訪者への価値伝達のクオリティを高める。
	石見銀山ガイドの会	石見銀山ガイド養成講座	一般市民を対象とした石見銀山ガイド養成講座の実施 (講座終了後に石見銀山ガイドの会の会員としてガイド活動ができる人材を養成する)	現在約70名が在籍する石見銀山ガイドの会は、平均年齢の高さなどの諸事情により、実働人数が半数程度の状況であるため、ガイドを育成することで将来的なガイド活動の継続につなげる。 見学コース整備が進む中、ガイドの対象範囲も拡大しているため、観光客の需要に応えることのできる態勢を整える。このことにより、観光客のさらなる誘客につなげる。

■ 審査事業審査表

項目	申請団体	事業名	評価点					合計	採否 採 択 ○ 不採 択 ×
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員		
石見銀山を守る活動	大森町自治会協議会	「大森町住民憲章」の看板作成	23	23	26	24	26	122	○
石見銀山を活かす活動	NPO 法人 緑と水の連絡会議	石見銀山 世界遺産を守る森づくり グリーンボランティアツアー	22	23	25	25	27	122	○
	島根県現代彫刻 振興委員会	みんなでつくろう福光石彫ワークショップ ～触って感じる彫刻 in 石見銀山～	18	19	22	21	24	104	○
	NPO 法人しまね歴史 文化ネットワーク もくもく	石見銀山を活かす活動 「石見銀山三日籠り」2013	27	22	21	24	25	119	○
石見銀山を伝える活動	石見銀山地質研究会	世界遺産石見銀山エリアにおける地質研究と啓蒙活動	23	21	24	22	25	115	○
	NPO 法人 プロジェクトゆうあい	石見銀山のバリアフリー観光情報の発信事業	24	24	26	24	26	124	○
	石見銀山とり・むし・はなの会	石見銀山の動植物を知り、伝える	22	21	22	21	25	111	○
	石見銀山ガイドの会	石見銀山ガイド養成講座	24	28	29	28	27	136	○

※ 総得点（150点）の6割（90点）以上の点数を獲得した団体の中から、獲得点数の高い順に選定（事業採択）

選定委員からのコメント

○「大森町住民憲章」の看板作成 (大森町自治会協議会)

- ・看板作成にあたっては、大森町住民憲章の策定経緯について、外部の方にわかりやすいように説明文を盛り込むことが望ましい。

○石見銀山 世界遺産を守る森づくり グリーンボランティアツアー (NPO 法人緑と水の連絡会議)

- ・事業実施にあたっては、各関係機関との連携を図ること。
- ・伐採後の竹の活用方法についても検討を行うこと。

○みんなでつくろう福光石彫ワークショップ (島根県現代彫刻振興委員会)

- ・石見銀山の歴史と文化の関わりを明白に結び付けること。
- ・ワークショップの開催に際しては、教育委員会や学校教育の現場と連携し、学べる場としてほしい。

○石見銀山を活かす活動 「石見銀山三日籠り」2013 (NPO 法人しまね歴史文化ネットワークもくもく)

- ・今後、事業を継続していくためには、組織体制の在り方やプログラムの改善が必要である。

○世界遺産石見銀山エリアにおける地質研究と啓蒙活動 (石見銀山地質研究会)

- ・活動の成果をまとめ、一般の方に周知できるようなガイドブックを作成してほしい。

○石見銀山のバリアフリー観光情報の発信事業 (NPO 法人プロジェクトゆうあい)

- ・フリーペーパーの作成にあたっては、石見銀山ガイドの会など基金を活用している他団体と横のつながりを持ち、連携してほしい。

**○石見銀山の動植物を知り、伝える
(石見銀山とり・むし・はなの会)**

- ・石見銀山地質研究会や石見銀山ガイドの会と連携し、歩きながら見ることができるようなガイドブックを作成してほしい。

**○石見銀山ガイド養成講座
(石見銀山ガイドの会)**

- ・ガイドの確保という課題の解決に向けては、行政と連携しながら進めてほしい。

■ 選定基準

石見銀山基金事業選定委員会では、次の各評価項目について審査し、その総得点の6割以上の点数を獲得した団体から順次、獲得点数の高い順に石見銀山基金事業として選定する。

(1) 評価項目及び評価の着眼点

評価項目	評価の着眼点
①継承性	I 地域共通の課題の存在を認識し、解決を図る活動であるか。 II 未来の世代に良好な地域環境や地域社会をもたらす活動であるか。 III 目的を共有する誰もが参加できる開かれた組織による活動であるか。 IV 石見銀山の新たな価値を見出し、地域への誇りを醸成する活動であるか。
②必要性	I 社会情勢に対してニーズが高い活動であるか。 II 取り組む必要性が明確であるか。
③公益性	広く地域、社会に貢献する活動であるか。
④発展の可能性	I 今後、その成果の広がりを期待することができるか。 II 次世代の育成につながるか。 III 今後、継続して取り組める体制、計画となっているか。
⑤実現の可能性	実施体制、事業計画、資金計画、スケジュールなどが実現可能なものとなっているか。
⑥費用の妥当性	経費の見積もりは、活動の内容に見合う適正なものとなっているか。

(2) 評価方法

上表の評価項目ごとに5段階評価で採点する。

(最高点：6項目×5点＝30点) ※委員1人あたりの得点